

# ライフサポートひなた 訪問リハ

症 例 概 要 80代・女性・要介護1

病名：パーキンソニズム

既往歴：なし

経過：令和元年より歩行障害を患っており、自宅内でのみの生活となっていた。安定した歩行を獲得し、屋外への活動を希望され、令和5年4月から当施設の訪問リハビリを週2回で利用開始となった。

## 内 容

令和5年4月より、当事業所の訪問リハビリを開始しました。開始当初、ご本人は屋内での伝い歩きはできるものの、歩行時の不安定さが目立ち、屋外への外出はほとんどできない状態でした。しかし、ご本人の「自分の足で歩きたい」「外の景色を楽しみたい」という強い思いを受け、訪問リハビリを通じて歩行能力の向上を目指しました。

リハビリでは、「安定した歩行の獲得」「屋外活動の促進」「行きたい場所への外出」を目標に掲げ、体幹動揺の軽減を図るための介入を行いました。立位保持や歩行練習を重ねる中で、次第に体幹機能が向上し、奇跡的な回復を遂げました。徐々に歩行が安定し、自信がつくと、ご本人自ら立位バランスの練習に励むようになり、活動量が飛躍的に増加しました。

特に、「自分の足で近所のファミリーレストランまで行きたい」という大きな目標を設定し、屋外歩行の機会を増やしたことで、外出範囲が大きく広がりました。その結果、日常生活に大きな変化が訪れました。ご本人の表情は明るくなり、笑顔が増え、今では「次はどこへ行こう?」と積極的に外出を提案するほど、生き生きとした毎日を送っています。

この奇跡的な回復と生活の変化は、単なる機能改善にとどまらず、「人生を取り戻す」ことにつながったと言えます。訪問リハビリを通じて、ご本人の生活に賑わいが生まれ、新たな希望を持って毎日を楽しんでいることは、私たちにとっても大きな喜びです。

今後も、より多くの方が自分らしく輝けるよう、訪問リハビリの可能性を広げていきたいと思っております。